

なくそう！
新型コロナウイルス感染症に係る
偏見、いじめ・差別



活用にあたって

1 学習展開例の内容等について

No.	タイトル	内容	推奨学年
①	「せきをした友だち」	・咳エチケットの大切さ ・決めつけた見方のおかしさ	小学校・小学部 (低学年)
②	「もやもやの理由」	・感染症に結びつけたからかい ・「もやもや」を解決するための行動	小学校・小学部 (中学年)
③	「料理店のうわさ」	・外国人の人権に係わる問題 ・不確かな情報や固定観念が生み出す差別	小学校・小学部 (高学年)
④	「〇〇地域に住んでいる人は・・・」	・SNSにおける差別的言動 ・差別的言動の問題点の指摘	中学校・中学部
⑤	「3つの“感染症” ～病気、不安、差別～	・3つの“感染症”の「負のスパイラル」 ・「負のスパイラル」を断ち切る視点	高等学校・高等部

2 活用について

短時間で活用していただけるよう作成しました。学校の状況に応じてご活用ください。
推奨学年を示していますが、学校・クラス・地域の実態に合わせて編集し、柔軟に活用してください。

※本指導資料は編集しやすいよう、PDF ファイルとあわせて、Word ファイルを送付しています。

3 学習展開例の表記ルールについて

青字(*1)は、授業者向けのもので、以下の2種類があります。

- ・指導上の留意点
- ・予想される子どもの反応(*2)…斜体字で示してあります。

(*1) 小さな文字で表記しています。

(*2) 「子どもの反応」の記述は、学習のねらいに沿ったものを中心に記載しています。

【関連資料】

- ・「新型コロナウイルス感染症の予防～子供たちが正しく理解し、実践できることを目指して～」(文部科学省)
- ・「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」(日本赤十字社)



学習展開例

これなら、短い時間で、学習することができるかも！



展開例①『せきを した ともだち』〔推奨学年:小学校・小学部（低学年）〕

【ねらい】・咳エチケットの大切さを理解する。
・医学的な根拠もなく、決めつけた見方をするおかしさに気づく。

1 つぎのはなしを よんで、かんがえましょう。

あきらさん、まことさん、わたしの 3にんで がっこうから かえっていた
ときの ことです。あきらさんが、とつぜん せきを しました。



あきらさん「ごほん、ごほん」

まことさん「やめてよ！こっちむいて せきを するの。マスクも ^{ますく}はずして いるしさ。
せきが できるのは、^{ころな}コロナに かかっているからでしょ」

わたし 「・・・」

あなたが「わたし」なら、だれに どんなことを いいますか。

つぎの なかから あなたが 「いいたい」と おもう ことばを えらび、○を つけましょ
う。○は、いくつ つけても かまいません。

- ㊦ () あきらさん、からだの ちょうし よくないの？ だいじょうぶ？
- ㊧ () あきらさん、せきを するときは くちを おさえようね。
- ㊨ () まことさん、せきを しているだけでは、^{ころな}コロナに かかっているか どうか、
わからないよ。

- ・丸をつけた言葉に挙手をさせ、選んだ理由を聞く。
 - ㊦ アキラさんの体の調子が心配だから
 - ㊧ 咳をするときにはマスクをしたり、人がいない方を向いてしたりする方がいいから
 - ㊨ 咳をしているだけでコロナにかかっていると決めつけるのはおかしいと思うから
- ・選択肢とは違う言葉を言いたい子どもがいれば、発表させ、言いたい理由を聞く。
- ・「自分だったら何も言わない」という意見の子がいれば、そう考える理由を聞く。
- ・授業者は子どもの意見を取り上げる中で、以下の点を確認したい。
 - 感染を防ぐためにも、咳エチケット（マスクを着用する、ハンカチ等で覆う等）が大切であること
 - 咳をしていることだけで感染していると決めつけるのはおかしいこと
 - 相手の気持ちを考えて行動することが大切であること

2 学習して、わかったことを 出し合いましょう。

咳をするときは、人に向けてしてはいけないとわかった / 咳をしているだけでコロナにかかっていると決めつけるのは
おかしいとわかった / 相手の気持ちを考えることが大切だとわかった

- ・授業者からは、体の調子が悪く感じたら無理をしないこと、家族や教職員に伝えることを確認する。

展開例② 『もやもやの理由』〔推奨学年:小学校・小学部(中学年)〕

【ねらい】・咳をすることを新型コロナウイルス感染症と結びつけてからかったり、「新型コロナウイルス感染症」という言葉を用いてふざけたりすることの問題性に気づく。
・安易な言動で誰かを傷つけたり差別したりしないよう、人の気持ちを考えて行動しようとする態度を身に付ける。

1 次の話を読んで、考えましょう。

《学校からの帰り道》

Aさん、Bさん、わたしの3人で話をしながら歩いていました。Aさんが、「ねえねえ、今日、Cさん、じゅぎょう中にせきをしていたよね。コロナだったでしょ！」

とふざけたかじで言いました。するとBさんも「ぜったいコロナだよ、コロナ。明日学校に来ないでほしいよね～」とわらいながら言いました。わたしもつい、「そうだね。学校に来ないでほしいね～」と言ってしまいました。



《家に帰って》

わたしは、「何かもやもやするなあ…」と感じていました。

(1) 「わたし」は、どうしてももやもやしたのだと思いますか。次の中から、えらび、○をつけましょう。○は、いくつつけてもかまいません。

- ㉶ () Aさん、Bさんにあわせて、自分もふざけてしまったから。
㉷ () 「学校に来ないでほしい」というのは、いけないと思ったから。
㉸ () この会話を聞いて、いやな気持ちになる人がいると思ったから。
㉹ () これから、Aさん、Bさんの前で、せきができないと思ったから。

- ・丸をつけた言葉に挙手をさせる。選んだ理由について、くわしく言える子どもには発言をさせる。
①体調の悪そうなCさんのことでふざけるのはよくないことだから / ②冗談であっても「学校に来ないでほしい」というのは、いじめだから / ③Cさんがいやな気持ちになるから / ④コロナのことを冗談にするのは、コロナにかかって亡くなった人やその家族、苦しんでいる人等のことを考えたらよくないことだから / ⑤感染の心配をしながら働いているお医者さんやごみを集めてくれている人等もいい気がしないことだから / ⑥AさんやBさんからかわれなれないかと心配だから / ⑦咳のことでからかわれると、体調が悪いことも言いにくくなるから
- ・選択肢とは違う言葉を言いたい子どもがいれば、発表させ、そう思った理由を聞く。
- ・授業者は、子どもの意見を取り上げながら、以下の点に気づかせたい。
 - 新型コロナウイルス感染症と関連づけたからかいや冗談は、感染者やその家族等の気持ちを考えていない言動であること
 - からかい等が、体調がよくないことを言い出しにくくさせてしまうこと

(2) 次の日「わたし」は、もやもやをすっきりさせるために何かをしました。どんなことをしたと思いますか。出し合ひましょう。

自分が家に帰って考えたことをAさんBさんに伝え、一緒に考えてもらう。「コロナのことを冗談にするのはよくない気がするんだけど、どうかな」「冗談でも『学校に来ないでほしい』と言われたら、自分なら嫌だけど、どうかな」等 / もやもやした気持ちついて別の友だちに相談をした / 考えたことを先生に伝え、みんなで考える時間をつくってもらった

2 学習をして、思ったことを出し合ひましょう。

感染した人やその家族等のことも考えて話をするようにしたい / 体調がよくないことを言い出しにくくするから、ふざけなどをしないようにしたい / 困ったことがあったら、誰かに相談するようにしたい

展開例③『料理店のうわさ』〔推奨学年:小学校・小学部(高学年)〕

【ねらい】・不確かな情報や固定観念に基づいた憶測が、偏見や差別を生む原因になることを理解する。
・差別的言動の問題性を指摘したり、制止したりする方法について考える。

・活用にあたっては、外国につながる子どもやその家族を不安にさせることがないように、配慮する必要がある。事前に学習のねらいを説明し、授業内容や展開について話し合っておくとよい。

1 つぎの文は ある朝の教室での会話です。読んで 考えましょう。



Aさん

母さんが言っていたんだけど、市内で外国料理の店をしている人が、コロナウイルスに感染したらしいよ。

ホントに!?

外国の人ってよくハグとかするから、外国の人たちの間では結構、感染が広がっているかもしれないな。



Bさん

だから、外国の人には近づかないようにしないと。

そういえば、となりのクラスのC、外国から転校してきたんだっただよな。感染しているかもしれないから、Cにも近づかないようにしましょう。

(1) AさんとBさんの会話で、問題だと思うところに線を引き、出し合しましょう。

・以下の点に気づかせたい。

○Aさんの母親が言っていた話が信頼できるものかどうかが不確かなのに、鵜呑みにしてしまっていること

○外国料理の店の経営者を外国人と思い込み、その人が感染したと決めつけていること

○「外国人はハグをする」という固定観念から、外国人の間に新型コロナウイルス感染症が蔓延していると決めつけていること

○「外国人は外国の人どうしのかかわりしかない」と決めつけていること

○外国人の間で感染が広がっているという憶測から、外国につながる友だちを避けようとしていること

・上記のような固定観念や決めつけが、外国の人に対する偏見や差別を生む原因になることを理解させたい。

(2) あなたは、AさんやBさんに どんなことを 言いますか。出し合しましょう。

・(1)の活動で気づくことのできた問題点を相手にどう伝えるかを、「自分なら」という視点で考えさせたい。また、出し合うことにより、いろいろな切り口からAさん、Bさんに働きかけられることに気づかせたい。

<Aさんに対して>

Aさんのお母さんは、どうやってその話を知ったの? / その話は事実なの? / 「感染したらしい」ってことははっきりしてないってことじゃないの? / 感染しているかどうか、はっきりもしてないのに、Cさんを避けるのっておかしいと思うよ



<Bさんに対して>

外国でもハグの習慣のない国はいっぱいあるよ / 感染が本当だとしても、外国の人たちの間で広がっているかどうかはわからないよ。日本人にも広がっている可能性があると思うよ

2 学習をして感じたことや考えたことを、出し合しましょう。

不確かな情報を鵜呑みにするのは危険だと思った / 外国の人たちを一括りに考えるのはおかしいと思った / 不確かなことを鵜呑みにしているといじめや差別につながってしまうと思った / 自分や自分の家族も不確かな情報に流されてしまった経験がある

【発展的な学習として】

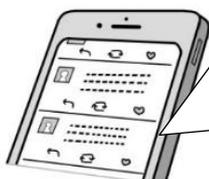
新型コロナウイルス感染症に係わることに限らず、「不確かな情報に流されてしまった経験」等を出し合ってもよい。また、子どもの実態に応じて、「外国人」等、何らかの属性を基に、一括りにしてしまった経験について考えさせてもよい。

展開例④ 『〇〇地域に住んでいる人は・・・』〔推奨学年:中学校・中学部〕

【ねらい】・差別的言動を批判的に捉え、偏見や差別につながる問題点について理解する。
・差別的言動の問題点を指摘する方法や、いじめや差別をなくす行動について考える。

・子どもの実態に応じて、SNS について説明をしたり、設定を変更したりしたうえで、学習を展開するとよい。

1 あなたの住む市(町)で、新型コロナウイルスの感染者が確認され公表がありました。あなたが友だちの A さんと 2 人で SNS で会話している中で、A さんから次のような書き込みが送られてきました。



Aさん

① ねえねえ、知ってる？
ネットの投稿で見たけど、コロナウイルスの感染者って、私たちの校区の〇〇地域に住んでいる人らしいよ～

② 〇〇地域の人、だれが感染しているかわからないから、気を付けるように、みんなに拡散しようよ！

③ 〇〇地域の子たち、みんな登校禁止にしてほしいよね～
そういえば、B も〇〇地域に住んでいるよね。
B とは話さない方がいいよ！ 明日から、みんなが無視しようよ。

・(1)と(2)を通し、問題点として以下のようなことに気づかせたい。

ネットの情報は誤っている可能性があること / 事実であっても感染者の特定につながる内容を掲載・拡散する等の行為は人権侵害にあたること / 不確かな情報やうわさ等を発信・拡散することが、人々を不安にさせ、偏見や差別、いじめを生む原因になること / 新型コロナウイルス感染症が広がっている地域に住んでいる人々を一括りにして避けようとする意識が、偏見や差別につながる

(1) この書き込みの内容を読んで、「問題がある」と感じるところに線を引き、その理由を出し合しましょう。

・感染リスクを避けたいという心理は自然なものなので、その気持ちを否定しないようにする。

・「感染していないのに差別するのはよくない」といった意見があれば、「感染に関係なく差別は許されないこと」を確認する。

(2) 「問題がある」と感じたことを、あなたなら、A さんにどのように伝えますか。その内容を考え、交流しましょう。

・「書き込んで伝えるのか、直接会って伝えるのか」等、伝える手段についての質問があれば、自由に選んでよいことを伝える。その手段を選んだ理由も出し合わせるとよい。

【①の内容に対して】

ネットで見つけた情報って本当なのかな？ / 感染者を探しているみたいじゃない？ そんなことをすると感染者やその家族を苦しめるんじゃないかな

【②の内容に対して】

感染を心配するのは分かるけど、不確かな情報の拡散はみんなの不安を煽るだけだよ / 誰が感染しているかわからないのは、他の地域でも一緒だよ

【③の内容に対して】

感染しているかどうかかわからないのに登校禁止っていうのはおかしくない？ / 〇〇地域に住んでいることで無視するって、いじめだよ

(3) このような新型コロナウイルス感染症を理由としたいじめや差別をなくしていくために、どのようなことができるか考え、交流しましょう。

不確かな情報を拡散しない / 不確かなことは、情報源を確認する / 公的機関が提供する情報等、正しい情報を得る / 感染した人やその家族の気持ちを考えながら行動する / まず自分たちがいじめや差別をしない / いじめを見つけたら、被害にあっている子に声をかける / 家族や先生に相談する / 家族と新型コロナウイルス感染症による偏見や差別について話し合う

・たくさん出し合うことにより、できることを柔軟に考えられるようにさせたい。

展開例⑤ 『3つの“感染症” ～病気、不安、差別～』〔推奨学年:高等学校・高等部〕

【ねらい】・新型コロナウイルスの「3つの“感染症”」についての理解を深める。
・感染拡大につながる「負のスパイラル」を断ち切るための視点を養う。

・ここでは2回に分けた学習を提示しているが、時間が確保できるなら連続で行うとより効果的である。また、事前に子どもが各自視聴しておくことが可能なら、〈第1時〉設問2以降を1回で行うとよい。

〈第1時〉

1 動画「新型コロナウイルスに負けない! ～差別や偏見をなくすために～」を見ましよう。

動画(約12分)のURL http://www.pref.mie.lg.jp/MOVIE/ci200006535_00001.htm

※「三重県 新型コロナウイルス感染症対策ポータルサイト」で検索。「児童生徒のみなさんへ」の中の「在宅学習用動画 ⑤コロナについての学び」に掲載している。

・視聴前に、「新型コロナウイルスの怖さは、病気そのものだけにあるのではないと言われている。他にはどんなことがあるのだと思う？」等の問いかけを行い、動画の内容に対する意識づけをしておく。すでに視聴している子どもがいれば、印象に残ったことを紹介させてもよい。

2 動画を見て、感じたこと・考えたことを出し合ひましよう。

・子どもの意見を取り上げながら、3つの“感染症”の「負のスパイラル」と、「感染症を防ぐためにできること」について確認する。次回、「負のスパイラル」についての学習を進めることを伝える。

〈第2時〉

1 3つの“感染症”の「負のスパイラル」(悪循環)を確認ましよう。

・病気への恐れが不安を生み、不安が差別を生み、差別を恐れることが感染拡大につながるという「負のスパイラル」を確認する。「負のスパイラル」の図は、「日本赤十字社 新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう」で検索し、ダウンロードすることができるので、提示するとよい。
・〈第1時〉と〈第2時〉を1回で行う場合は、省略できる。

2 「差別が病気につながること(「差別」⇒「病気」)」について、考えてましよう。

(1) 新型コロナウイルス感染症が広がって以降、次のような気持ちになったことはありますか? 各自の経験を出し合ひましよう。

「もし、熱が出たとしても、人には言いにくいなあ」

・授業者がこれと似た気持ちになった経験を伝えると、子どもも自分の気持ちを出しやすくなる。出し合うことにより、多くの人がこのような気持ちを抱いていることを確認できるとよい。

(2) 「言いにくい」と感じるのは、なぜだと思ひますか。出し合ひましよう。

・ニュース等で知っていることなど、子どもの意見を取り上げながら、社会で発生している以下のような言動が、言いにくくさせていることに気づかせる。出にくいようであれば、授業者が事例を示すとよい。

【言いにくくさせる言動】の例

- ・感染者やその家族等に対する批判的な言動(不当な批判、個人情報をも暴きつるし上げるような行為等)
- ・感染者やその家族等に対する攻撃的な言動(嫌がらせ、落書き、投石等)
- ・感染リスクが高いと思われる人に対する忌避的な態度、排除や攻撃等の差別的言動 等

・【言いにくくさせる言動】は、「負のスパイラル」における「差別」の典型例であり、それが感染拡大につながることを確認する。

(3) 「負のスパイラル」における「差別」をなくすために、自分にはどのようなことができるでしよう。自分の考えを書きましよう。

・感想用紙を回収し、後日、交流させてもよい。子どもの意見を取り上げながら、【言いにくくさせる言動】をとめること、自分がしないことが、感染拡大防止につながることを確認するとともに、そういった言動の多くは個人のプライバシーや財産等を侵害する行為であり、いかなる理由があっても許されないものだということに気づかせたい。「他者に感染させるような行動を故意にした人は、批判/攻撃されても当然ではないか」といった意見があれば、そのような場合でも人権を侵害するようなやり方は認められないということを確認する。
・【言いにくくさせる言動】に触れた経験を振り返り、それらについて感じたことや考えたことを出し合う活動につながると、より自分に引きよせて考えやすくなる。

2020（令和2）年5月発行
三重県教育委員会事務局 人権教育課
〒541-8570 津市広明町13番地
電話 059-224-2744（市町支援班）
059-224-2745（県立学校班）
FAX 059-224-3023